

平成28年度技術研究開発賞選考発表会および第69回全社技術研究発表会 開催



勝野社長

平成28年11月30日、中電ホールにて「平成28年度技術研究開発賞選考発表会（以下、開発賞）」および「第69回全社技術研究発表会（以下、発表会）」が開催されました。

開発賞は、当社や地域社会または科学技術の進歩に貢献した研究に対し表彰をもって賞揚し、士気の高揚と成果の周知活用を目的としています。また、発表会は技術の向上、事業所・部門間の技術交流、ならびに、研究意欲の向上を目的に開催しております。

開発賞では、4件の発表件名の中から「社長賞」1件、「本部長賞」2件、「優秀賞」1件が選ばれ、発表会では、エントリーされた24件名から2件に「最優秀賞」、6件に「優秀賞」が授与されました。

審査結果発表・表彰にあたり、勝野社長は「たゆまぬ研究や技術開発は、当社の事業における礎である。これからは、第4次産業革命と言われているようにインターネットを通じて様々なものがつながり、暮らしや社会の仕組みが大きく変わっていく。技術開発や実証を通じて、安定・安価な供給に資するとともに、ますます多様化するお客さまニーズにお応えし、期待を超えるサービスをすみやかに提供していくことが一層重要になる。本日の発表の成果が、より多くの現場や業務に活用されることを期待している」と、技術開発に期待するところをお話されました。

岡部技術開発本部長は、開催にあたり「今年4月の電力小売り全面自由化、来年4月からはガス小売事業参入、系統面では再生可能エネルギーの大量導入など事業環境が大きく変化し、技術面ではIoT等に関連した技術が大きく発展し世の中を大きく変えることも予見されるが、お客



岡部本部長

さまが私たちに求めるものは変わっていない。お客さまからの期待に今まで以上にお応えしていくためには、今まで培ってきたDNAをこれからも引き続きしっかり繋いでいくとともに、事業環境変化をしっかりと受け止め、IoTに代表されるような新たな技術を仕事に取り込んで、進化していかなくてはならない。そのためには技術研究開発の重要性は論を俟たない。」とのお話があり、発表会最後には、「当社事業に大きく貢献しているものばかりで、既存設備の活用や運用方法の創意工夫など知恵を絞って課題解決を図っており非常に頼もしく思った。発表内容は甲乙つけがたく、評価が拮抗した。今後も引き続き研鑽に励んでほしい。」との講評がありました。



技術研究開発 社長賞



技術研究開発 本部長賞



技術研究開発 本部長賞



技術研究開発 優秀賞

平成28年度「技術研究開発賞選考発表会」

受賞内容	件名	所属	氏名	
社長賞	電気&ガスハイブリッド式過熱水蒸気発生器の開発	エネルギー応用研究所 生産技術 G	三摩 達雄 長 伸朗	
本部長賞	石炭火力の付着クリンカ監視技術開発に係る研究	電力技術研究所 発電 G	成川 公史	
		発電 CP 碧南火力発電所 技術部	田中 幸輔 機械課 中川 昌昭	
	次世代 SVR の開発に関する研究	電力 NWCP 配電部	制御技術 G 技術 G	宮部 敬司 岩田 好弘 北岡 正通
		ガス絶縁開閉装置における油圧操作装置の劣化調査と その保全方策提案による延命化	電力 NWCP	工務技術センター 技術 G
工務部 変電 G	川村 健			

第69回「全社技術研究発表会」

【ステージ発表の部】

受賞内容	件名	所属	氏名
最優秀賞	長尺ラセンハンガーによる 新たなケーブル架設工法の開発	電力 NWCP 通信ネットワークセンター 技術課	山本 信孝
優秀賞	地盤特性を考慮した現地計測式の 早期地震警報システムの検討	原子力安全技術研究所 地震・津波・防災 G	豊田 淳史 高橋 健治
		販売 CP 法人営業部 エンジニアリング G	石川 佳宏 赤坂 千春
	IH コイル試作及び設計の内製化手法の開発	三重支店 営業部 法人営業 G	岡村 多佳也 奥田 雅人 前田 一真
奥矢作第一発電所 調相運転の改善について		発電 CP 愛知水力センター 技術課 岡崎支店 豊田電力センター 変電課	石川 裕起 奥平 紘二郎 星野 豊

【ポスターセッション発表の部】

受賞内容	件名	所属	氏名
最優秀賞	南向発電所 河川維持流量の放流方法の改善による 発生電力量の増加施策について	長野支店 飯田電力センター 南向ダム管理所	藤井 健太 藤原 光秀
優秀賞	SCP（サンドコンパクションパイル）を利用した 石炭灰の埋立処分 ～碧南火力発電所～	発電 CP 火力発電事業部 火力士建 G	藤井 嵩大 菊地 宏 山田 里佳
		電力技術研究所 流通 G	川原 徹
	CV ケーブルの寿命評価に関する研究	名古屋支店 技術部 地中線 G	若林 佑樹
緑化工事における地域性に配慮した在来種の 調達範囲の評価	エネルギー応用研究所 バイオ技術 G	津田 その子	



全社技術研究発表会ステージ発表の部 最優秀賞



全社技術研究発表会ステージ発表の部 優秀賞



全社技術研究発表会ステージ発表の部 優秀賞



全社技術研究発表会ステージ発表の部 優秀賞



全社技術研究発表会ポスターセッションの部 最優秀賞



全社技術研究発表会ポスターセッションの部 優秀賞



全社技術研究発表会ポスターセッションの部 優秀賞



全社技術研究発表会ポスターセッションの部 優秀賞

第61回 澁澤賞受賞

第61回（平成28年度）日本電気協会澁澤賞贈呈式が平成28年11月29日、東京都内にて行われ、当社より2名が受賞しました。

澁澤賞は、故澁澤元治博士が昭和30年に文化功労者として表彰を受けられた栄誉を記念し、昭和31年に創設され、電気保安に優れた業績を上げた方々を対象に表彰するもので、各界より広く認められている権威ある賞です。

工務技術センター技術グループの原田英広専門副長が受賞した「長距離大電力送電を実現する自動式静止形無効電力補償装置の開発」は、上越火力発電所新設に伴う長野方面の電力システムの安定度や過電圧の問題を解消するための装置を開発したもので、2012年に実系統へ導入し、安定運用に貢献しています。

また、半田営業所配電運営課齊藤健二配電技術長が、長年にわたり第一線事業場で配電設備の建設および保守業務に従事し、高い現場技術力と豊富な配電知識・経験を基に後輩の技術力向上および技術継承に尽力した取り組みが評価され受賞しました。



左から原田さん、齊藤さん

博士号取得

このたび、技術開発本部 エネルギー応用研究所 バイオ技術グループ 陸域生物チームの津田その子さんが、平成28年9月に博士（農学）の学位を授与されました。

津田さんは、生物分野の専門研究員として、これまで各部門の緑地管理や緑化工事の課題解決に取り組んできた成果を博士論文「電力設備の緑化および植生管理における外来緑化植物と地域性系統の植物の適切な利用に関する研究」としてまとめました。「今後は、大学で深めた植物の

専門性を生かした研究はもちろん、電力設備の生物課題解決に役立つ研究に幅広く取り組みながら、電気事業と環境への配慮の両立に貢献したいと考えています。」と語っています。

